

第2次総合計画施策評価シート《令和2年度分》											
施策コード	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち								
5	4	施策目標	4	市街地の整備							
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する										
	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する										
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化										
											
目指すべきまちの姿		生活拠点の整備や集約的な都市構造への転換が進み、便利で快適な生活が維持されています。									
●主要施策と概要【PLAN】				この1年間の成果及び反省点【DO】			担当課	評価【CHECK】			
(1) コンパクトなまちづくりの推進 ・人口減少や高齢化が進むなかで、誰もが便利で快適に暮らせる維持可能なまちづくりを目指し、コンパクトな都市構造を推進するため、立地適正化計画を策定します。				令和2年3月に策定した弥富市立地適正化計画に基づき、集約型都市構造の構築に向けて取り組んでいます。			都市整備課	A			
(2) 市街地の計画的整備【重点施策】 ・J R・名鉄弥富駅の自由通路及び橋上駅舎の整備を行うことで、鉄道により分断された南北の連絡の確保及びバリアフリー化を図ります。 また、自由通路整備に合わせ、弥富駅北口駅前広場を整備し、交通結節点としての機能向上を図ります。 ・新市街地の土地利用動向等をふまえ、市街化区域及び用途地域見直しを行います。 ・新たな活力の創出に向け、港湾地域における物流・産業拠点の形成と連動し、弥富トレーディングセンター跡地をはじめとする後背地における工業系土地利用を促進します。				令和3年3月に、J R及び名古屋鉄道と、事業合意を締結しました。 弥富市南部の弥富ふ頭埋立立地について、都市計画変更を行いました。			都市整備課	A			
(3) 市街地緑地の保全 ・市街化区域内農地について、多面的な機能を考慮し、生産緑地の保全を図ります。				市内の生産緑地が適正に管理されるように利用状況を確認し、都市における農地等の適正な保全を図り、良好な都市環境の形成を資するように努めました。			都市整備課	A			
●施策目標に対する市民満足度				単位	現状値 (2017年度)	目指す方向性	中間値 (2022年度)				
駅や市役所周辺の整備				%	25.0	↗					
市街地や農地などの計画的な土地利用の推進				%	15.0	↗					
●成果指標			単位	現状値	各年度の実績値			目標値 (目指す方向性)			
				(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(2) 市街化区域面積			ha	1,012	1,100	1,100			1,130	1,150	
(3) 生産緑地面積			ha	3.7	3.7	3.4			3.7	3.7	
事業No	実施計画に係る事業名		担当部署	今後の進め方【ACTION】							
(2-1)	J R・名鉄弥富駅自由通路整備及び橋上駅舎化事業等		都市整備課	重点施策であり、歩行者等の安全を確保するとともに、バリアフリー化が図られた安全性、利便性の高い交通結節点を形成するため、計画どおりに事業を進めます。 今後は工事等に着手するため、予算増額となる見込みです。							現状維持
(2-2)	車新田地区まちづくり検討		都市整備課	令和2年度中は、計画協議図書の素案作成までは終了できたので、今後は、地権者の仮同意を約9割取得する段取りで進めます。							現状維持
(3)	生産緑地保全事業		都市整備課	市街地内農地は貴重な資源であり、引き続き生産緑地の保全を図ります。 今後は、新市街地の整備と合わせ、新たな生産緑地の指定を検討していく必要があります。							現状維持
施策の今後の方針【ACTION】		持続可能な街づくりを目指し、集約的都市構造に必要な交通結節点整備のため、J R・名鉄弥富駅自由通路整備事業を実施する必要があります。 令和3年度には自由通路の都市計画手続きを行い、3年度末には鉄道事業者と工事協定を締結し事業を推進していきます。また、令和4年度から北口駅前広場の用地取得費及び鉄道事業者に対する委託料及び負担金が必要となります。 弥富駅周辺地区や車新田地区のまちづくり検討地区では、今後もまちづくりを推進するため調査・測量等が必要となります。									

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(2-1)	J R・名鉄弥富駅自由通路整備及び橋上駅舎化事業等	都市整備課	都市計画グループ	令和3年7月7日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち	重点施策 ○
	施策目標	4	市街地の整備	
	主要施策	2	市街地の計画的整備	
	主要事業		J R・名鉄弥富駅自由通路整備及び橋上駅舎化事業等	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する			
	 			

■事業内容【PLAN】

事業目的	J R・名鉄弥富駅において、自由通路を整備し、鉄道による交通分断を解消するとともに、南北地区の連携強化を図ります。					主な協働・ 関連団体等	東海旅客鉄道株式会社
							名古屋鉄道株式会社
事業概要	J R・名鉄弥富駅自由通路整備に合わせ、橋上駅舎、南北駅前広場を整備します。					関連する 個別計画・ 根拠法令等	自由通路の整備及び管理に関する要綱
							高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
事業の開始・ 終了	開始年度	2019	年度	終了年度	2027	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
		0					自由通路整備等	636,000
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	262,000
							駅前広場用地買収等	390,000
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	175,500
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	合計	0	合計	0	合計	0	合計	1,026,000
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	437,500

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	

指標の分析	
-------	--

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	人口減少・超高齢化社会に対応した都市経営を行うため、集約型都市構造への転換を図る必要があります。その中で、当事業により都市拠点と位置付けられる弥富駅周辺地区の課題を解決するとともに、面的・一体的なバリアフリーを推進し、誰もが暮らしやすいまちづくりを推進する必要があります。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	弥富駅周辺地区の利用・整備に係るアンケート調査結果より費用対効果(B/C)を算出し、事業効果を確認しています。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	道路構造物を築造するため、市が実施主体となります。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	JR・名鉄弥富駅自由通路整備及び橋上駅舎化事業は、総合計画における良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまちの実現に必要な事業であり、持続可能な都市経営に繋がります。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
重点施策であり、歩行者等の安全を確保するとともに、バリアフリー化が図られた安全性、利便性の高い交通結節点を形成するため、計画どおりに事業を進めます。今後は工事等に着手するため、予算増額となる見込みです。	現状維持

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(2-2)	車新田地区まちづくり検討	都市整備課	都市計画グループ	令和3年7月7日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち	重点施策 ○
	施策目標	4	市街地の整備	
	主要施策	2	市街地の計画的整備	
	主要事業		車新田地区まちづくり検討	
SDGs 連携分野	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
	 			

■事業内容【PLAN】

事業目的	今後の人口減少に対応するため、都市の機能が集約された利便性の高いコンパクトなまちづくりを目指すこととしており、当地区においては、弥富駅の徒歩圏内に位置しているなどの立地ポテンシャルを活かした土地利用を図ります。					主な協働・ 関連団体等		
事業概要	当地区の土地区画整理事業に必要な都市計画図書等の作成および土地所有者との合意形成を図ります。						関連する 個別計画・ 根拠法令等	土地区画整理法
事業の開始・ 終了	開始年度	2019	年度	終了年度	2028	年度		

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	協議調書作成、世話 人会補助	9,130	協議調書作成、世話 人会補助	9,130	区域区分図書作成、 区画整理設計	66,664	都決図書作成、 建物調査	14,570
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	合 計	9,130	合 計	9,130	合 計	66,664	合 計	14,570
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(2) 市街化区域面積	ha	1,012	1,100	1,100			1,130	1,150	

指標の分析 今後の弥富駅周辺地区のまちづくりに併せて、鉄道駅から徒歩圏内となるエリアに住環境や商業立地環境を計画的に形成していく見込みです。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	土地利用の誘導を検討し、土地所有者等関係者との合意形成を熟成していく必要があります。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	今回の予算額は、市街化区域編入及び土地区画整理組合設立認可の図書作成にかかる費用（都市計画法第7条土地区画整理法第14条）であるため、コストの削減の余地はありませんでした。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	土地区画整理組合設立までに必要な手続きは、市が実施主体となります。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	車新田地区の計画的整備を実施することは、都市計画マスタープランにおけるコンパクトで利便性の高い都市環境づくりの実現に必要な事業であり、持続可能な都市経営に繋がります。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
令和2年度中は、計画協議図書の素案作成までは終了できたので、今後は、地権者の仮同意を約9割取得する段取りで進めます。	現状維持

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(3)	生産緑地保全事業	都市整備課	公園緑地グループ	令和3年7月7日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち	重点施策
	施策目標	4	市街地の整備	
	主要施策	3	市街地緑地の保全	
	主要事業		生産緑地保全事業	
SDGs 連携分野	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する			
				

■事業内容【PLAN】

事業目的	市街化区域内の緑地の計画的な保全を図ります。					主な協働・ 関連団体等	
事業概要	市街化区域内農地について、多面的な機能を考慮し、生産緑地の保全を図ります。					関連する 個別計画・ 根拠法令等	生産緑地法
事業の開始・ 終了	開始年度	2019	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
		0		0		0		0
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	合計	0	合計	0	合計	0	合計	0
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(3) 生産緑地面積	ha	3.7	3.7	3.4				3.7	3.7

指標の分析 生産緑地が担う役割を十分に理解していただいております、今後は指定面積が維持される見込みです。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	市街地内の農地を貴重な資源と捉え、新市街地の整備と合わせ、新たな生産緑地の指定を検討していく必要があります。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	市街地内の農地は、都市的土地利用への転換の有効性と農地の多面的な機能のポテンシャルを総合的に勘案して、生産緑地の指定を検討します。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	都市計画法に基づき、市が都市計画決定しているため、市が実施主体となります。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	生産緑地の保全を図ることで、市街地内の安らぎや潤いといった緑地空間の提供や災害時に備えたオープンスペースの確保といった多面的な役割を果たしています。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
市街地内農地は貴重な資源であり、引き続き生産緑地の保全を図ります。今後は、新市街地の整備と合わせ、新たな生産緑地の指定を検討していく必要があります。	現状維持